

近ではインターネット販売を活用して島外へ出荷する人もいる。

観光や工事関係者および大物狙いの釣り客などが多い地域のため、漁業者の中には民宿や遊漁船業も兼ねる、いわゆる海業を営む漁業者も多い。

3. 私が平島で漁業をしようと思った動機

私は福岡に住んでいた子供の頃、近所の遊漁船を所有している人から釣りに誘われ、釣りが好きになった。その後、ずっと釣りが趣味となり、大学生になってからは大物釣りに特に引かれるようになった。全国的に大物釣りでは十島村＝トカラ列島は有名で、特にGTと呼ばれるロウニンアジ釣りには、全国から大物狙いの釣り好きが集まって来る。私も学生時代にGT狙いでトカラを訪れ、平（たいら）島で釣り宿を兼ねた民宿を経営する漁業兼釣り案内の複合経営を営む人と親しくなり、幾度となくお世話になった。そこで分かったことは、平島にはGTなどの遊漁対象種以外の水産資源も豊富にある

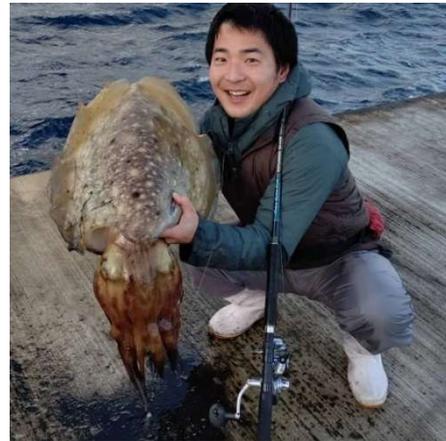


写真1 学生時代：平島にて

ことである。港を少し出たところで大漁したり、高級魚が簡単に釣れたりもする。学生時代には平島で民宿の手伝いをしながら釣り三昧の日々を過ごした。大学を卒業し東京に就職した後も、平島での釣り三昧の日々が忘れられず、「この資源が豊富な平島で漁師になれないか」と考えるようになった。

いろいろ調べてみると、十島村は移住・定住対策が充実していて、国や県、県漁連の後継者育成事業などをうまく利用すれば移住が可能と判断した。そこで、定住を前提に次に述べるような各種研修事業に応募し、これらを活用することにした。こうして私は、漁師への道の第一歩を踏み出すことになった。

4. 漁業研修の状況

漁業研修については、初めに鹿児島県主催の「かごしま漁業学校」の短期研修と県や県漁連、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターなどによる「中期研修」を受けた。指導者はこれまでお世話になってきた複合経営を営む漁業者で、平成30年8月から12月まで指導を受けた。この約5カ月の間、指導者から瀬物一本釣りやひき縄などによる釣り方や漁場、潮の方や潮による漁場の選択方法、さらに台風接近時の船の管理方法など、平島で漁業を行う上で基本的なことを教わった。これまで遊びで釣っていたGTは数を上げることが難しく値段も安いため、漁業者は瀬物中心の漁をしている。狙う魚が違うため戸惑うことも多かった。まだまだ勉強することがたくさんあることが分かったが、とにかく釣りが好きであったことと資源が豊富なことなど、平島で漁業中心の生活をする自信のようなものも芽生えて来た。

そこで、本格的に漁業で自活するため、3カ年の「長期研修」を受けることを決意

した。同時に指導者からの「漁業だけで生活するのは厳しい」という助言をいただき、夫婦で検討し、漁業単独ではなく、遊漁案内や民宿経営などとの複合経営を目指すこととした。

長期研修は平成 31 年 1 月から短期、中期研修と同じ指導者の下で研修を受けたが、その指導者が体調を崩されたため、令和 2 年 6 月に研修を一端休止することになった。それまで、普通なら教えてもらえないような釣りのコツを懇切丁寧に教えていただいたり、島で生活する上でのさまざまなしきたりなどを指導していただき、本当に感謝している。

指導者の体調回復が遅れたため、同じ平島の漁業者に指導者を変更して令和 3 年 1 月から長期研修を再開した。研修指導者が変わったことで、同じ平島で同じような魚を狙っても、釣り方、漁場の選び方、潮の読み方が違うことに気づいた。その内容全てを具体的に説明するのは難しいが、例えば瀬物一本釣りでは、日によって、さらに深さによっても変わる潮流を読んで、魚のいる水深 100m 以深の場所にきちんと仕掛けを落とすことが大変難しい。うまく読めてポイントに仕掛けを落とし、すぐに当たった時はこの上なくうれしかった。これが一本釣り漁業の奥深さ、難しさだと感じたものの、挑戦する意欲も湧いてきた。指導者が変わったことは偶然とはいえ、この 2 人の方法を学べたことは私の漁業経営開始に至る貴重な経験となり、今後の糧になると思っている。また、研修の終盤には指導者と合わせて 1 日 80Kg も瀬物を漁獲することができた。このように大漁すると本当にうれしく、漁業で自活する自信も大きくなった。



写真 2 長期研修の状況

表 1 研修期間中 2 人での日の最大漁獲
(金額は税抜き額)

魚種	漁獲重量 (Kg)	平均単価 (円/Kg)	金額 (円)
チビキ	54	1,791	96,692
ヒメフエダイ	27	962	25,877
その他	3	792	2,060
計	84		124,629



写真 3 漁獲したチビキ

5. 漁業経営の開始

研修休止の期間、複合経営の始動に向けて村の支援をはじめとして情報収集に努めた結果、令和 3 年に知人から安く小型遊漁船を譲っていただけることになり、漁船導入に当たっては村の無利子貸付や設備整備の補助金を活用したことで負担も少なく入

手することができた。純粋な漁船の型ではないものの“SEA CRAFT”と名付け、自分が得意とするイカ釣りや近場での釣りに活用している。

また、民宿についても、村の奨励金や無利子貸付、国の創業支援を受けられることが分かり、それを活用して令和3年3月に客室6部屋の民宿「海の宿しらさか」をオープンした。

令和4年8月に長期研修を終え、同年9月からは、“SEA CRAFT”と民宿で独立して複合経営を開始した。まだまだ新米漁業者で燃料費など経費が大変なため、短時間で民宿に必要な分だけを釣って早々と戻ってくる状況ではあるが、少しずつ出荷できるようになり、今後の展開方法が見えてきた。



写真4 所有漁船 SEA CRAFT



写真5 海の宿 しらさか



写真6 食事一例

6. 今後について

今後は、多少の荒天でも瀬物一本釣りができるような本格的漁船を購入することが一番の課題だ。これにより釣り客案内も行い、今の新鮮な魚を提供するだけの民宿から、釣り宿兼用の民宿への転換を図りたいと思っている。

また、平島には村が整備した水産加工場がある。しばらく休止していたが、村が機器などの修理、改善を行い、加工場担当として地域おこし協力隊員を招いて令和4年7月から事業を再開した。現在は、鮮度の関係で本土出荷が不利になるカマスサワラやカツオ、本土で値段がつかない小型の瀬物などを小売り用の刺し身や柵にして急速凍結し、島内の高齢者に販売したり、しけが続いた時には民宿などへ販売し、喜ばれている。われわれ漁業者もフェリーの欠航を気にせず操業でき、運賃負けする魚が収入になるなど、加工場の運営がうまくいけば本当に助かると考えている。実は私はこの加工組合の組合長をしているが、漁業と民宿の複合経営を軌道に乗せるのに精一杯で名ばかりになっており、十分な仕事できていない。余裕ができれば、少しずつ関わりを増やしていきたい。

また、令和2年度からは、鮮度面での不利な状況に対応するために、村と漁業集落が連携して国の離島漁業再生支援交付金を活用したフェダイ類などの活魚出荷が始ま

っている。村営フェリーの協力で定期便に活魚水槽を積み込み、航海中は海水を掛け流して鹿児島市内まで運ぶ方法だ。その結果、フェダイ類はキロ単価1万円を超えることもあり、将来は自分もこのフェダイ類の活魚出荷にも挑戦してみたいと考えている。



写真7 活魚水槽のフェリーへの積み込みとフェリー内での状況

表2 十島村漁協全体での活魚出荷の量と金額、単価の状況（金額は税抜き額）

	量 (Kg)	金額 (千円)	平均単価 (円/Kg)	単価幅 (円/Kg)	出荷延回数
令和2年度	378.6	920	2,430	330~ 8,000	15
令和3年度	459.3	1,027	2,236	500~12,000	15
令和4年度	221.1	773	3,496	600~10,000	9

また、十島村は沿岸資源に重要といわれている海藻やサンゴが少なく、本来サンゴの隙間に産卵するコブシメが岩の隙間などに産卵していることもあるため、令和3年度に同じく離島漁業再生支援交付金でコブシメ産卵礁を設置した。私もこの取り組みに参加したが、波浪による流失が多いなどまだまだ改良すべき点が多いと考えている。今後も改良を加えながら取り組みを継続して、沿岸資源の増加にも取り組んでいきたいと考えている。

また、最近では、私の後輩が地域おこし協力隊員として島に移住して来た。この後輩は将来、私がかつて受けた後継者対策事業の研修を受けて、漁業で生活したいと強く望んでいる。経験を生かし、こうした人への指導・協力もして行きたい。

7. まとめ

平島をはじめとするトカラ列島は都会の人から見れば不便なところかも知れないが、少なくとも漁業をする上では魅力いっぱいである。研修を受け始めた時は、来たばかりの若者に漁業の細かいコツを親切に教えてくれるとは思っていなかったが、平島の私の2人の指導者は包み隠さず教えてくれた。国や県などの研修制度があるおかげだと思うが、平島の人にも感謝いっぱい、本当にありがたく思っている。

また、鮮魚の鹿児島へのお荷経費についても国や村の補助があり、実質的に経費の2~3割の自己負担で済んでいる。さらに、通常の生活についても村の充実した支援があり、各家にインターネットの高速回線が通じている。必要な物はインターネット

サイトから取り寄せれば送料がかからないところもある。教育についても、村内の小中学校は生徒数に対して先生の数が多い。きめ細やかな指導と豊かな自然を求め、都会からの山海留学生が多数いるほどだ。

島ならではの人と人とのしがらみもあるが、それでも十島村はよいところで、移住してよかったと思っている。

現在、私の民宿は公共工事のおかげで常に8割以上稼働しているが、今後はこの宿泊客も少なくなることが予想されるので、「トカラ＝大物釣り」のイメージをさらに発信して、遊漁の観光客をさらに呼び込みたい。そうすることにより、U・Iターンによる人口増加も望めるし、地域の活性化にもつながると考えている。そのためにも、先に述べたように漁船を大型化して遊漁船業を始めたい。そして、漁業、民宿、遊漁船業との複合経営により、後輩や先輩漁業者を巻き込んで海業を推進していきたい。